栃木県建設業の経常分析について

足利大学総合研究センター　研究員　正会員　○高瀬　浩紀
足利大学　工学部　創生工学科　正会員　藤島　博英

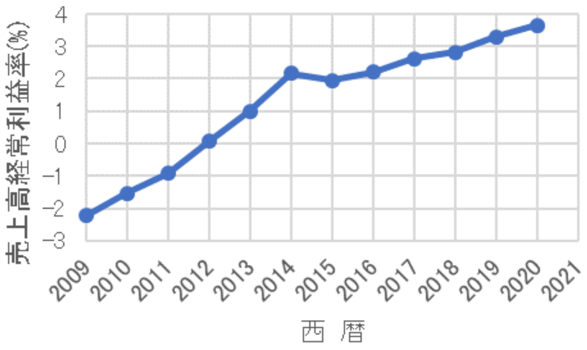
1. はじめに

今後我が国において生産年齢人口が減少することが予想されている．特に建設業界は 2030 年において建設技術者不足が発生するとの報告もあり [1)]，生産性向上は避けられない課題である．建設現場における生産性を向上させる取り組みとして i-Construction（以下 ICT 技術と記す）が進められているが，小規模な企業ほど経営が厳しい状況に立たされ，技術の導入が難しいと考えられている．

本研究では，近年多発する自然災害のため，インフラ整備のあり方が見直されてきている状況の中，インフラ整備を担う地方建設業の現状を把握するため，栃木県の 2015 年および 2021 年の経営事項審査データより，売上高，経常利益および経営状況の指標となる売上高経常利益率に着目し分析を行うことで，地方のインフラ整備を持続可能なものとするため，今後どの様な状況が予測できるか検討することを目的とした．

2. 分析対象について

図−1 に（財）建設業情報管理センターより得られた，全国建設業の売上高経常利益率の変移を示す．図より 2009 年から 2014 年に関しては同様な伸び率を示しているが，2015 年に値が下がってからは，伸び率が以前に比べ緩やかになっている．そこで 2015 年と 2021 年の経営事項審査データに示されている売上高，経常利益の値を基に売上高経常利益率を求めた比較分析を行った．但し，経営事項審査データでは，売上高経常利益率は上限 5.1%，下限-8.5%を設定しているが，今回の分析では上限，下限を設けず売上高と経常利益から計算される値を使用した．



図−1　全国建設業の売上高経常利益率の変移

売上高経常利益率は，企業の収益や経営状況を示す指標として広く使用されており，自社と同程度の規模を持った同業他社と比較するなどし，経営状況を把握するための重要な指標である．この値は一般的に高い方が経営状況が良いと判断するが，極端に高すぎる場合は従業員への十分な還元が出来ていない，品質が悪い，ビジネスの成長においてお金を使えていないなどの原因がある場合がある．

また，企業の規模による違いを比較するため，令和 3・4 年度栃木県公共工事入札参加資格のランク（格付）SA，A，B，C の 4 ランクを使用し検討を行った．

3. 分析結果

図−2〜4 に 2021 年 A ランクから C ランクの売上高経常利益率の度数分布図を示す．なお， SA ランクについては，企業数が 12 社と少ないことから，ここでは省略した．**図−2，3** については分布の幅が売上高経常利益率標準偏差値で 4.96〜5.04 と小さいが，**図−4** に関しては 9.8 と分布幅が大きい．また，図の売上高経常利益率が減少している企業数について A ランクは 14 社の約 31%，B ランクは 19 社の約 28%，C ランクは 72 社の約 45%となっており，C ランクの企業は売上高経常利益率の減少した企業が多く経営が厳しいことが伺える．

表−1 より，2015 年の売上高経常利益率中央値について見てみると，SA ランクから B ランクにかけては 3.33〜3.77 とほぼ同じ値を示しているのに対し，C ランクは 2.60 と低い．2015 年から 2021 年について増減率を見

キーワード　地方建設業，地方のインフラ，売上高，売上総利益，売上高経常利益率，経常利益

連絡先　〒326-8558 栃木県足利市大前町 268-1 足利大学工学部 TEL：0284-62-0605 E-mail：h.takase.0529@gmail.com

© Japan Society of Civil Engineers

表-1　経営事項審査データによる計算結果一覧表

	企業数				売上高経常利益率中央値				売上高経常利益率標準偏差値			
ランク	SA	A	B	C	SA	A	B	C	SA	A	B	C
2015年	12	45	67	157	3.33	3.50	3.77	2.60	2.45	5.06	4.82	5.97
2021年					2.92	6.06	6.16	4.00	2.03	4.96	5.04	9.80
増減率	-	-	-	-	-12.5	73.0	63.4	54.0	-17.2	-2.0	4.7	64.3

（金額単位：千円）

	売上高平均値				売上総利益平均値				売上高経常利益率平均値			
ランク	SA	A	B	C	SA	A	B	C	SA	A	B	C
2015年	3,496,187	678,090	465,416	207,761	306,225	81,239	71,839	35,811	2.25	2.90	3.10	2.39
2021年	4,584,536	848,429	544,813	249,018	433,053	134,308	100,486	51,255	3.01	5.83	6.20	3.58
増減率	31.1	25.1	17.1	19.9	41.4	65.3	39.9	43.1	34.0	101.2	100.4	49.7

てみるとSAランクが-12.5%に対し，Aランクは73.0%，Bランクは63.4%，Cランクは54.0%と増加傾向にあるものの，CランクはA，Bランクより増加率が低いことが分かる．これは上記で述べた通り2021年の売上高経常利益率が下がった企業が多いためであり，SAランクについては，企業数が少ないため，1社の値が大きく影響したと考える．

また，売上高経常利益率標準偏差値増減率に着目してみるとSA，A，Bランクに比べ，Cランクは64.3%とバラツキが大きい．ランクが大きくなればバラツキは少なく経営は安定しており，Bランク以上の企業は安定，Cランクの企業は不安定であることが読みとれる．

4. まとめ

小規模の企業は経営が厳しいという背景から，栃木県を対象に，ランク別に経営状況について比較した．その結果Bランク以上の企業については経営が安定している．しかし，Cランクの企業については，標準偏差値の増減率が大きいことから経営が不安定であることが推測でき，約45%の企業の売上高経常利益率が減少していることから，今後の経営に問題が出てくると考えられる．この様な状況では今後ICT技術への対応は難しく，生き残れる企業が限られてくると思われる．

今回はデータの分析結果に対して踏み込んだ検討までは至らなかったが，小規模な企業ほど売上高経常利益率の中央値から乖離する企業が多いことを指摘出来た．今後は，土木，建築等の業種間の違いや，他県および複数年のデータに対し検討する必要がある．

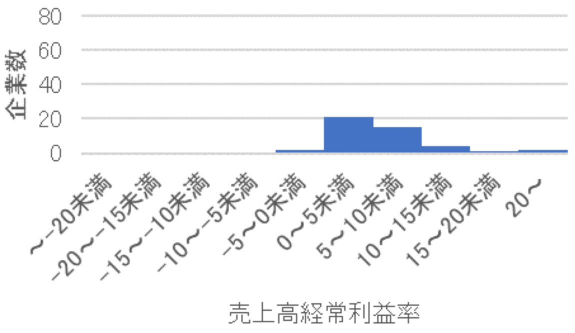


図-2　2021年　Aランク売上高経常利益率

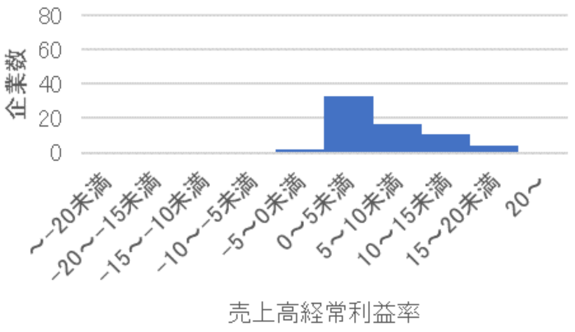


図-3　2021年　Bランク売上高経常利益率

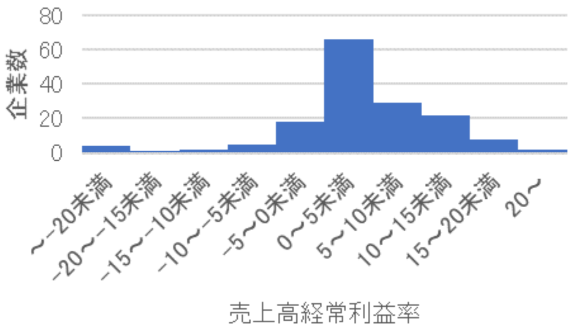


図-4　2021年　Cランク売上高経常利益率

参考文献

1) 三石真也・越智雄士・笠原由加里，建設技術者数の将来推計と需要ギャップ分析，第37回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会講演集，2019年12月，pp.297-300.